

『SYOHEI ニュース』発行のお知らせ

岩手県奥州市は、大リーグエンジェルス大谷翔平選手のふるさとです。

また、奥州市では市立病院・診療所に勤務していただける医師招へいの一環として平成 19 年度から医師養成事業を実施しています。

SYOHEI ニュースは、奥州市の医師養成事業をご利用いただいた方及びその保護者等の皆様に毎月 1 回、市の広報誌「奥州」とともに奥州市の情報をお届けすることを目的として発行することといたしました。

令和 2 年度新規奨学生 3 名を採用

令和 2 年度に奥州市の医師養成事業奨学生 3 名を採用しました。平成 25 年度に 2 名採用した以降、新規採用者ゼロが続いていましたが、令和元年度に制度の見直しを行った結果、今年度 3 名を採用しました。

3 名の内訳は、県外生 2 名、県内生 1 名、男性 2 名、女性 1 名です。共に目的達成まで応援します。よろしくお願いします。

養成医師の義務履行 2 名を御紹介

奥州市の医師養成事業養成医師の薄善孝さんと佐藤一輝さんが、4 月から週 1 回診療応援という形で義務履行をスタートしました。医師養成事業の義務履行者は、薄さんと佐藤さんが第 1 号になります。薄さんは泌尿器科の医師で、岩手医科大学病院に勤務しながら毎週月曜日に総合水沢病院に勤務していただいています。

佐藤さんは、神経内科の医師で、仙台医療センターに勤務しながら毎週火曜日に総合水沢病院に勤務していただいています。

昨年度の制度改正で、1 年間診療応援していただきますと、3 か月義務履行したことにカウントします。

新任医師紹介

4 月 1 日付けで佐々木裕(ゆたか)医師が着任しました。32 歳消化器内科医です。よろしくお願いします。

新型コロナウイルス関連情報

総合水沢病院は 4 床の感染症病床を持っており、県や奥州保健所と連携しながら、呼吸器内科医の小野寺克洋医師を中心に市民の相談対応や検査にあたっています。

4 月 23 日現在岩手県の感染確認者は全国唯一ゼロですが、日々緊張感をもって業務に従事しています。

ティータイム「いわむら」コーナー

このコーナーは、奥州市病院事業管理者の岩村正明のつぶやきコーナーです。お楽しみください。

「招聘」と「翔平」の語呂合わせ、楽しんでいただけましたか。大谷は高校時代から目標達成シートを作成し、実行して夢を叶えたといいます。皆さんも目標に向かって頑張ってください。もう私たちの仲間ですので気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

令和 2 年 4 月 23 日発行 奥州市医療局経営管理課

〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 0197-25-3833

奥州市紹介 郷土の偉人

後藤新平（安政4年～昭和4年：1857年～1929年）



後藤新平は1857年（安政4年）現在の奥州市水沢吉小路に生まれ、6歳のときに武下節山の塾で漢学と書道を学びました。腕白でいたずらが激しく、先生に強く叱られることもありましたが、負けじ魂の強い新平は、勉強には人一倍励み読書や書を頑張りました。

12歳のとき、胆沢県庁の大参事（副知事級）安場保和の屋敷で、掃除や主人の雑用、来客の送迎などをしながら、昼は学校に通わせてもらい、安場の部下の阿川光裕に学問と生活上の指導を受けました。

新平は、阿川のすすめで福島県須賀川医学校へ入学し、学費の援助を受けながら猛勉強をし、生徒取り締まりの役も努めました。

医学校卒業後、医師として名古屋市の愛知病院に勤めることになり、オーストリア人のローレンツ博士から西洋医術と衛生学を学ぶことができました。

新平の優れた才能と努力が認められ、24歳で愛知病院長と医学校長を命じられました。

新平はその後、内務省衛生局の仕事をし、ドイツへの私費留学によって、衛生制度や社会政策を学び、帰国後、衛生局長になりました。

1898年（明治31年）、台湾総督府民生官を命じられ、盛岡出身の新渡戸稲造とともに気候にあった製糖業を盛んにしました。1906年（明治39年）、南満州鉄道株式会社の初代総裁となり、鉄道や港湾の整備、都市づくり、住民生活の安定などをすすめました。

新平は、1908年（明治41年）、初めて逓信大臣となつてから、内務・外務大臣を務め、近代日本を築くために活躍しました。特に、鉄道院総裁を3度も努め、鉄道の広軌化（現在の新幹線と同じ幅にすること）や東京駅の建設等に情熱を傾けました。

1920年（大正9年）、東京市長になると日本の中心東京の近代都市化を目ざし、8億円の大事業計画を立てたことから、「大風呂敷」と言われたこともありました。

1922年（大正11年）、日本ジャンボリーが開催され、少年団活動に理解のある新平は臨時総裁を引き受け、どんな相談にも熱心に応じ大成功に終わると、永く正式の総裁にと望まれました。

新平は、全国各地に出向き自治の精神を広めようと努力しました。（自治三訣）

自治三訣 人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう そしてむくいをもとめぬよう 新平

1923年（大正12年）東京市長を退いて間もなく、関東大震災が起これ、新平は帝都復興院総裁として、世界で初めて区画整理による都市計画を推し進めることになりました。

1924年（大正13年）には、東京放送局（現在のNHK）の初代総裁となり、ラジオの普及と放送の活用のために努力をしました。

後藤新平は、1929年（昭和4年）71歳で世を去りましたが、常に将来を見通す先見の政治家として、その偉大な業績は、今日なお、社会・経済・文化などの発展に役立っています。『新平記念館パンフレットから』

奥州市立 後藤新平記念館 開館は9時から16時30分（休館日は月曜日と年末年始です） 入館料は200円
〒023-0053 奥州市水沢大手町4丁目1番地 TEL0197-25-7870 mail:gotoshinpei@city.oshu.iwate.jp
なお、後藤新平記念館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 5月7日（木）まで臨時休館中 です。